



Rotary

ロータリーは
機会の扉を開く

Rotary Opens Opportunities



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 渡 邊 有 規 幹 事 田 原 聖 会報・雑誌委員長 伊 藤 繁 幸

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2894号 2020年12月8日(晴れ) 第20回例会 会員数120名 列席多数



点 鐘 渡邊 有規会長
司 会 副SAA 伴(誠) 会員

◇ロータリーソング「奉仕の理想」

※マスクを着用し、心の中で斉唱



ビジター紹介 秋元副会長

◇米山記念奨学生 ソク ピセット君

テット チャンソティア君

会長挨拶 渡邊(有) 会長

皆様、こんにちは。こんな時だからこそ、元気よくご挨拶をさせていただいて、皆様とともに、改めて元気を取り戻したいという思いで一杯です。

コロナの問題で、多くの事業やイベントが縮小、中止となり、皆様の仕事でも大変な思いをしているのではないかと思います。私の会社では、12月2日に後期の経営方針の発表会を自社にて行いました。コロナ禍の中、自社の存在価値を再度見定め、未来をどのように変えていくのが良いか、社員皆で話し合いをいたしました。我が社の原点はお客様を愛することです。建築、企画、設計を通して、お客様の感動と喜び、成功繁栄に貢献すること、その思い一心であることが我が社の存在価値であり、未来へ託せるところなのではないかと思いました。足元をもう一度見定め、固めていこうと話しました。ロータリーも大変な時ではありますが、コロナの時代だからこそみつめられる原点を再認識し、先輩方々から、学ばせていただきたいと存じます。

また、ロータリーも多くの変更があつて、先日の臨時理事会の後皆様にご連絡いたしました。12月の年忘れ例会を昼間の開催にいたしました。そういったことも前向きに、今何ができるのか考えながら、全力投球していきたいと思つています。5年、10年経つて、「あの時は大変だったけれど、皆が一体

になつて絆が深まつた。」と言われるような例会にしていきたいと思つています。本日も理事会がございます。正月の後のことやいろいろな話をいたします。未来に向かって元気よく頑張つていきましょう。

◇奨学金の授与

米山記念奨学生 ソク ピセット君

テット チャンソティア君



幹事報告

田原幹事

◇12月22日の年忘れ親睦例会は通常の昼間の例会に変更。お間違いなく。

◇ガバナー事務所より台北国際大会の案内あり。

開催期間は2021年6月12日~16日。興味のある方は幹事まで。

◇クラブホームページのご案内

会員専用ページに委員会や理事会の情報がアップされています。ID、PWの分からない方は幹事まで。

◇本日18時30分~ ホテルニューイタヤにて 渡邊年度第7回定例理事会開催。



委員会報告

原委員長

◇出席委員会

<皆出席表彰・11月分>

連続49年 伴 清会員

連続34年 鳥居利一郎会員

連続24年 秋元 吉博会員

通算13年 稲見 京二会員

連続10年 山中 和弥会員

連続 7年 鈴木 明会員

通算 6年 金田 剛会員

連続 5年 清水 秀修会員

通算 1年 関 元明会員

イニシエーション・スピーチ

半田雅一会員

皆様、こんにちは。10月からお世話になることになりました。よろしくお願ひいたします。私は昭和40年8月に栃木県足利市に生まれ、昭和63年、足利銀行加須支店に入行致しました。まだまだバブルが続き、世の中の景気もよい時でした。平成9年に宇都宮の駅東口支店に異動し、この時に渡邊会長とご縁があり、知り合うことが出来ました。この年に、第一回目の金融恐慌といいますが、取り付け騒ぎが起きました。駅東口支店はそれほどでもありませんでしたが、群馬の太田、佐野等の両毛エリアでは外まで大渋滞できてパニックになったと聞いております。山一が破綻、翌年には北海道拓殖銀行がなくなり、銀行が潰れるのではないかとされる時代でした。

なんとか乗り越えて落ち着いた時、私の方は郡山支店に転勤になります。法人の新規の取引先開拓という専門部隊の立ち上げがあり、そのメンバーに選ばれ、赴任したのが郡山でした。その後の前橋支店でも新規開拓に関わりました。前橋支店に赴任した翌年の2003年11月29日に足利銀行が破綻します。今でも忘れませんが、前日の夜中の1時に「明朝7時に集まれ」という連絡があり、そのまま眠れずに朝を迎えました。出勤すると当時の支店長からその説明がありました。まず最初に、株主の皆様へ説明とお詫びに向かいました。ひたすらお詫びに回りました。後にこの時の経験を皆それぞれ文章にし、本部一括で保管をしていると聞いています。そして、破綻を知らずに入ってきた若い行員がはじめに受ける研修で、この時の話が取り入れられています。今こういう形で残っているのは支えていただいたお客様がいてくれたから、と話をいたします。辛かったのは、同じ仲間が辞めていくことでした。人事異動や退職などはたいてい年度末など、きりのよいところで何人かですが、

この当時は毎月、若い行員、中堅どころの行員が20人、30人と退職いたしました。

その後、平成27年に茨城の筑波支店に赴任しました。常陽銀行のお膝元です。平成28年10月にいきなり常陽と一緒になるということで、破綻の次にびっくりする話でした。昨日の敵は今日の友ではありませんが、複雑な思いでした。16カ所の職場、10回以上の引っ越しで、多くのお客様、仲間、先輩方とご縁をいただきました。自宅も埼玉に買いましたが、12年のうちまともに住んだのは1年位です。基本的には移転したところに住むことでその土地のことをもっと知ろう、というのが諸先輩方の教えでもあり、実践しております。良い経験が出来たと思っております。

大変だった時代を支えていただいて今があるということに感謝ですし、ご縁をいただいている皆様、そしてこういった会合にも出させていただける喜びに感謝しているところでございます。破綻を知らずに入ってきている行員がいよいよ半分以上を超えてきました。いかに地域の皆様に支えられたかを指導していくのも私どもの役目と思っております。この何年かで、恐らく、破綻を知っている者がいなくなっていくと思いますが、この話、内容については決して忘れることなく、ずっと語り継いでいかなければなりません。ご迷惑をおかけしたということについては一生消えない部分でもあり、これを背負って生きていかなければいけないだろうと思います。まだまだ全盛期と比べれば給料も低いままですが、地域の皆様のお役に立てる行動が出来るとの喜びの方が、やはり大きいと思います。いつまで銀行にいられるかわかりませんが、最後の最後まで地域の皆様のために、支えていただいた皆様へのご恩返し、自分なりに一生懸命やっていたと思います。いろいろなご縁、これからも大切にしていきたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。